

製品名: CYP2B6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09650**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	CYP2B6
別名	CYP2B6; Cytochrome P450 2B6; 1; 4-cineole 2-exo-monooxygenase; CYP11B6; Cytochrome P450 I1B1
遺伝子 ID	1565.0
SwissProt ID	P20813
免疫原	ヒト CYP2B6 の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

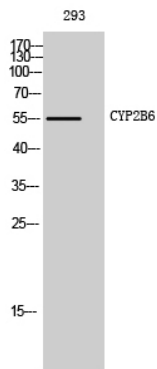
この遺伝子 CYP2B6 は、シトクロム P450 スーパーファミリーに属する酵素をコードしています。シトクロム P450 タンパク質はモノ

オキシゲナーゼであり、薬物代謝やコレステロール、ステロイド、その他の脂質の合成に関わる多くの反応を触媒します。このタンパク質は小胞体に局在し、その発現はフェノバルビタールによって誘導されます。この酵素は、抗癌剤であるシクロホスファミドやイホスファミドなどの一部の生体異物を代謝することが知られています。この遺伝子の転写バリエーションが報告されていますが、これらの転写産物が実際にこの遺伝子によって産生されるのか、それとも近縁の疑似遺伝子である CYP2B7 によって産生されるのかは解明されていません。この遺伝子と疑似遺伝子はともに、19 番染色体 q 上の CYP2A、CYP2B、および CYP2F サブファミリーに属するシトクロム P450 遺伝子の大規模クラスターに含まれる CYP2A 疑似遺伝子の中央に位置する。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: $RH + \text{還元型フラビントタンパク質} + O(2) = ROH + \text{酸化型フラビントタンパク質} + H(2)O$ 、補因子: ヘム基、機能: シトクロム P450 は、ヘムチオレートモノオキシゲナーゼ群である。肝ミクロソームにおいて、この酵素は NADPH 依存性電子伝達経路に関与する。ステロイド、脂肪酸、生体異物など、構造的に無関係なさまざまな化合物を酸化します。誘導: フェノバルビタールによる。オンライン情報: CYP2B6 アレル, PTM: リン酸化は酵素活性の低下を伴います。類似性: シトクロム P450 ファミリーに属します。組織特異性: 肝臓、肺、心臓右心室で発現します。、

研究分野

アラキドン酸代謝、レチノール代謝、シトクロム P450 による異物代謝、薬物代謝

画像データ



CYP2B6 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析